



国際交流

新春パーティー開催

日本人と外国人合わせて100人以上が参加。日本語教室の生徒さんとそのお友だちによる華やかなインド舞踊やアフリカの打楽器を使った合奏に、会場が一体となって盛り上がりました。外の寒さを忘れて、温かな交流を育むひとときになりました。



ワールドトーク

パキスタンについて学ぶ

日本生まれパキスタン育ちのゲストが、パキスタンとイスラム文化の習慣、食べ物、ファッションなど、多岐に亘って紹介。参加者の興味は尽きず、質問コーナーではたくさん手が挙がりました。展示した民族衣装やアクセサリーの美しさには感嘆のため息も。



日本文化体験

「梅染め」にチャレンジ

偕楽園の梅の枝を使った草木染めを体験。「どんな模様になったかな」とワクワクしながら、染まりたてのハンカチを広げて、その出来栄に思わずニコリ。日本語、英語、アラビア語、タガログ語など様々な言葉が飛び交う、活気あふれる講座でした。

2024年度も、イベント・講座の情報は ホームページ・Facebook・LINEでお知らせします

日本語ボランティアネットワーク研修会を開催
「地域日本語教育の今」を知る

文化庁国語課 地域日本語教育推進室 専門職 北村 祐人 氏

国内の在留外国人数が約322万人*1と過去最高となり、日本語を学ぶ外国人も約28万人*2に増加したことによって、政府は日本語教育推進に向けた取り組みの充実化を図っています。

研修会では、外国人のための日本語学習支援に関わるボランティアなど水戸市内外から28名が参加し、日本語教育に関する方針や施策について詳しい説明を聞きました。質疑応答では、「日本語ができない子どもへの対応はあるか」や「新たな制度は地域日本語教室にも適用されるのか」などさまざまな質問が挙がり、一人ひとりが地域の日本語学習者を思い浮かべながら、真剣に日本語教育に向き合っていました。

当協会では、センターで活動する日本語ボランティアと共催で、毎年スキルアップなどを目的とした研修会を開催しています。今後も日本語ボランティアと協力し、だれでも楽しく日本語を学べる場を築いてまいります。

*1 2023年6月末時点(入管庁) *2 2019年(文化庁)



水戸市で活動する国際交流団体

子どもたちの日本語学習を支援するグループ
「せきれいの会」

「日本語を母語としない子どもたち」が、異文化の中で少しでも快適な生活ができるように、日本語や学校教科書の学習を支援するボランティアによる日本語教室です。1999年2月の活動開始以来、多くの子どもたちがこの教室で学習し、就職や進学など、それぞれの目標に向かって飛び立っていきました。教室に通い始めた頃は、言葉や習慣が異なる環境の中で不安そうに戸惑っていた子どもたちが、次第に落ち着いて、日本語の習得のみならず、学習意欲を見せながら成長していく様子を、時間をかけて見守っています。

- 開講日：毎週日曜日 午前10時から午前11時30分まで
- 対象：日本語を母語としない市内の小中学生
- *会の名前の由来は、水戸の市の鳥「ハクセキレイ」にちなんでいます。



MICIA

Mito City International Association Official Magazine

ともに学ぶ。ともに働く。ともに暮らす。



未来に向けて、日本で暮らす外国人とともに、新しい社会を創る

水戸市の外国人市民は、この5年間で約400人増えました。市内のお店、職場や学校などで外国人市民と接することは、今や特別なことではありません。丁寧なコミュニケーションをベースに、互いの文化や習慣を知り、違いを認め合いながら共に暮らすことが、これからの日本の社会には必要です。

未来に羽ばたけ！ 外国籍の若者たち

水戸市国際交流センターでは、外国人市民の日本語習得を支援するボランティア・グループが、毎日、様々なスタイルや内容の日本語教室を開講しています。今回は、ネパールから水戸に来て、センターの日本語教室で日本語を学び、現在も水戸の近郊で充実した毎日を送っているガネスさんとスミットさんにお話を聞きました。

最初の1か月は、友だちが辞書を持って来てお互いに困りながら話しました

来日して初めの頃は、全く日本語ができなかったのが心配でしたが、でも、とてもワクワクしていました。2年生で入った中学校では当時、外国人生徒は自分だけで目立っていたので、それがとても楽しかったです。最初の1か月は、慣れなくて驚きばかり。友だちが辞書を持って来て、お互いに困りながら話しました。大変だったけど、お互いに理解し合えて楽しかったです。毎週土日にセンターの日本語教室に通い、中学校でも週2回、日本語指導の先生が来て日本語を教わりました。日曜日の「せきれいの会^{*1}」では、タイや中国などの子どもがたくさんいて、お互い刺激し合いながら学びました。彼らはもう日本にいませんが、たまに連絡を取っています。今は会話でわからない事があっても、簡単な日本語で説明してもらえれば理解できるので、困ることはありません。学ぶ機会もたくさんあって、友だちにも恵まれてラッキーでした。

大手文具メーカーに就職が決まり、「せきれいの会」の先生には良い報告ができました

高校は外国人特例選抜^{*2}で受験できましたが、就職活動は日本人と同じ条件です。学校の先生に特別に面接の練習をしてもらい、大手文具メーカーの製造部門に就職が決まったので、「せきれいの会」の先生には良い報告ができました。今は将来のことは考えず、仕事に集中する毎日です。朝起きて仕事に行き帰っての、繰り返しです。休みの日は音楽を聴いたり、自然が好きなので山に登ったりしています。ネパールには海がないので、海に行くのも好きです。



ガネス・パウデルさん
14歳で来日。水戸市立第一中学校卒業。茨城県立笠間高校に進学。卒業後、大手文具メーカーに就職

水戸は自分のもう一つの故郷、ずっと住み続けたいです

水戸は自分のもう一つの故郷になっていて、帰ってくると安心します。姉は結婚してネパールに帰ってしまいましたが、自分は水戸を離れることは考えてなくて、仕事の場所が遠くても住み続けたいです。今は自分と同じようにネパールから来た子を、中学校に案内したりして、助ける側になりました。これから日本に来る中学生へのアドバイスは、とにかく何も考えず勉強すること。ゼロから日本語を勉強しても、2年間勉強すれば普通にコミュニケーションをとることはできます。頑張り続ければ成功できると、伝えたいです。

日本語は、最初にすごく頑張って勉強しました

2020年10月に日本に来て、11月1日から中学校に通いはじめました。日本語は全然わからなかったけど、英語で話しかけてくれる人もいて、すごく助かりました。早く日本語を喋れるようになったかったので、中学の先生と週2回勉強して、あと兄がセンターの日本語クラスに通っていたので、一緒にセンターでも勉強したり、「にほんご水戸の部屋^{*3}」に通ったりしていました。会話ができるようになったら、文字をゆっくり学んでいこうという感じで。会話は、話せば話すほど慣れる気がしたけど、漢字はやっぱり覚えるのが大変でした。今は、中学校までの漢字だったらほぼ読み書きできるので、学校での授業には不安がないです。古典は全然ついていけないですけどね。日本に来たばかりの中学生には、「最初に頑張れば、あとで楽になるから」と伝えていますが、もう一つ、遊びも大切です。



スミット・サブコタさん
14歳で来日。水戸市立千波中学校卒業。茨城県立佐和高校に在学中。

「3年半でこんなに馴染んじゃうなんて」という感じです

友だちといっぱい遊んで、日本のいろんなことを教えてもらったし、自分も日本の生活に早く慣れたいなって思っていたので、「3年半でこんなに馴染んじゃうなんて」という感じです。友だちも先生もいい人が多くて、日本人はみんな優しいなっていうイメージも強いです。趣味はスケボー。中学の時は卓球部でしたけど、色々なことを経験したくて、今はバスケもゴルフもやっています。休みの日にはバイトもしています。高校は自分で選びました。「君の心に聴け」という校訓が気に入っちゃって。在学中に、なんかやってみようかなと思って、生徒会副会長をやりました。その時の挨拶文は、一応自分で書いたけど、ちょっと不安だったので、「にほんご水戸の部屋」の先生に見てもらい、今もノートにとってあります。

将来は、他の国に行って色々な経験をしたい、という気持ちもあります

大学に行きたいと思っています。大学となると、高校までと違って特例選抜枠はないので、日本人と同じように受験します。英語はできるので、あとは数学と国語。経営学だったら、親が飲食店をやっているんで、それを手伝えるし、自分でもビジネスマネジメントを学んでみたいと思っています。就職は日本にしようか海外にしようか、ちょっと考えています。日本でいい仕事が見つかったら日本にするかもしれないし、他の国やいろんなところに行ってみたい、いろんなことを経験したいっていう気持ちもあります。

*1 日本語を母語としない市内の小中学生を対象に毎週日曜日に開講(裏表紙に関連記事)
*2 外国籍の子どもの対象に、英国数3教科と面接の試験を行う、県立高校の入試方法
*3 毎週木曜日に、日本語学習のサポートに加えて、国籍や世代に関わらず様々な人々が交流する場として開講

Topics

もっと「やさしい日本語」を！

水戸市役所にて、日本語を母語としない外国人市民や高齢者にも伝わりやすい「やさしい日本語」でのコミュニケーションスキルを学ぶ研修を開催。福祉や教育、防災のほか、窓口業務に携わる様々な分野の市職員等が参加し、どのような表現なら、正確に情報を伝えられるかを、改めて考える機会となりました。



高齢者介護など日本の社会を支える技能実習生

1993年から始まった技能実習制度(本紙第77号参照)に、「介護」分野が加えられたのは2017年11月のことです。将来、介護人材が圧倒的に不足することが予想される中での制度の改定でした。とはいえ、「介護」は医療現場や高齢者向け施設において、患者や利用者の生命と健康に関わる仕事です。そのため、技能実習生を受け入れる事業所と実習生の双方に、必要な要件や資格が細かく定められています。

今回は、タイからの技能実習生として来日して、水戸市内の介護老人保健施設「はなみずき」で働く、ピヤンレー オーラパンさん(通称:フィールさん)に、日本で介護の仕事に就くまでの経緯や、介護の仕事についてお話を聞きました。



タイで大学を出てから日本語を猛勉強して技能実習生に

日本に来て、もう1年半になりました。タイのチェンライ出身です。子どもの頃から、日本のアニメ「コナン」や「ワンピース」、「NARUTO」を見て育ちました。大学の専攻は、ビジネスプランニングです。大学を卒業してから、技能実習生として日本に行く前提で日本語学校に入って6か月、日本語を勉強しました。タイ語の文字は一つなのに、日本語はひらがな、カタカナと漢字まであって覚えるのが大変でした。それでも、日本に行くためには、半年で日本語能力試験のN4レベル(*)に合格しなければなりません。一生懸命、日本語の勉強をしました。そして、日本で介護の仕事に就くため、タイでも2週間という短い期間でしたが、高齢者施設で研修もしました。タイにも老人ホームはありますが、数は少ないです。タイは大家族で、家族で高齢者の世話をする家が多いからです。

*国際交流基金と日本国際教育支援協会が運営する日本語能力試験。N1からN5の5つのレベルがある。1番やさしいレベルがN5。

介護の仕事は、日本語で会話をすることが大切

日本には旅行で来たこともなくて、初めてでした。すぐに、この介護老人保健施設で仕事を始めました。仕事はつらいとは思いませんでした。ただ、利用者とのコミュニケーションが大切なのに、最初、日本語がわからなくて、利用者が何をしてほしいのか理解できないときもありました。それでも、たとえ自分からはなかなか言葉が出てこなくても、利用者と「話してみたい」と思いました。他の仕事に比べて会話をすることが大切で、会話が本当に多いので、1年前と比べて今はずいぶんコミュニケーションがとれるようになりました。職場でも、次の日本語能力試験に向けて、週2回、日本語のクラスを受けています。

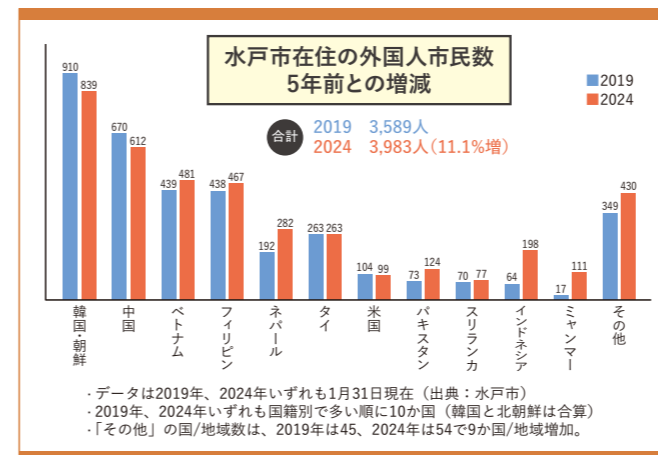
これからの目標

今、一人暮らしで生活費もかかりますが、収支のバランスはとれています。技能実習生として、この介護の仕事を期限までやって(*)、そのあとも、まだ日本で働き続けたいです。大学で勉強したのがビジネスプランニングなので、介護の仕事ではなくても、日本で働いて、お金を貯めたらタイに帰って、そこで自分でビジネスを始めたいです。

*技能実習生の在留期間は最長3年間

フィールさんには、タイの習慣や、日本の印象、水戸での生活についてもお話を聞いています。

インタビューの全文はこちら▶



ライブラリーだより

キッズスペース誕生！

MITO国際ライブラリーの蔵書のうち、絵本は約250冊。同じお話をいろいろな国の言葉で楽しむことができ、貸出しも増えています。絵本を、外国語と日本語で「読み聞かせ」するイベントも人気。毎回、次の開催を楽しみにしているファンも少なくありません(年4回開催)。そんなライブラリーで、子どもたちにもっと楽しく絵本を読んでもらおうと「キッズスペース」を設けました。広さは約37㎡。靴を脱いでフロアに敷かれたマットに上がって、親子で、お友だちと、のんびり絵本の世界を楽しんでみませんか。

